

## i-Construction 推進コンソーシアム 企画委員会

### 議事概要

日時：平成 29 年 3 月 31 日（金）16 時～17 時 30 分

場所：国土交通省 特別会議室 央合同庁舎 3号館 1 1階 特別会議室

出席：安宅委員、仮屋菫委員、北野委員、小宮山委員、鈴木委員、建山委員、田中委員（50 音順）

事務局より、H28 年度の実績と H29 年度以降の取り組み（資料 1）、i-Construction 推進に向けたロードマップ（案）（資料 2）、i-Construction 推進コンソーシアム WG について（資料 3）、ICT 土工事例集 ver.2（参考）について説明し、意見交換を行った。

（主な意見）

【H28 年度の実績と H29 年度以降の取り組み、i-Construction 推進に向けたロードマップ（案）について】

- ・ 産官学の連携を本格的に進めるべき。そのため、東大に連携講座を設置し、産・官の若手にも参画してもらいたい。
- ・ 3次元のデータの流通、メンテナンスへの活用にあたっては、いかにデータを保存し活用するか、セキュリティをどうするかなどが課題。
- ・ ダイバーシティのある職場が重要。本日はほとんどが男性であるが、高齢者でも女性でも働くことができ、魅力ある現場の実現のために議論を進めるべき。
- ・ 10 年間で生産性 2 割向上という、年率 3 %程度で継続してあげていかないといけない。相場感の分析が必要。どの分野で上げていくか議論しながら決めていかないといけない。
- ・ 劇的な効果が見込めるところを発見し、無理・無駄を洗い出していくことが必要。簡単でもいいので、現場の可視化のプロセスを早くやった方がいい。
- ・ ベンチャーの現場で何を進めているかを紹介すると、1つは自動化、効率化が大きく成果をあげている。ドローンはビデオスクリーニングの技術と合わせて維持管理への活用が期待できる。
- ・ 今回のロードマップについては、時間軸が明らかになり大変良いこと。
- ・ i-Construction では、基準類やマニュアル類の見直しが行われていることが画期的。
- ・ 今現場に導入された技術についてもまだ確立されていないため、現場で作り上げていくことが必要。
- ・ 作業時間の短縮については、充実感や達成感、工夫する時間の創出など次のステップにつなげることが重要。
- ・ 「i-Construction」が業界を越えて社会の話題になるよう、新工法をニュースにしていくことやロゴマーク、スローガンの策定などの取組にも期待。
- ・ また、社会の賛同を得るために、「新しい匠」の見える化をしてほしい。できればそれが女性など典型的な方であれば良い。
- ・ 3D データの利活用については、ブロックチェーンなどの新しい技術を使うことができるのでは。
- ・ i-Construction 推進に向けたロードマップ（案）（資料 2）については、事務局案を了承。

【i-Construction 推進コンソーシアム WG について】

- ・ 企画委員会は、i-Construction を進めて行くためのシンクタンクとして機能していきたい。
- ・ ピッチイベントについては、年 1 回ということではなく、技術の進歩が早い分野では 3 ヶ月に 1 回ぐらいやる方が良い。

- ・ 3次元データについて、何をどう流通させるかは、セキュリティーの問題もあり、インフラデータをどう出せるか検討していく必要。
- ・ WGのメンバーもどんどん増えている。知見や事例がリアルタイムに現場に届くようにしてほしい。
- ・ マッチングについて、疑似マーケットプレイスを作って手挙げ方式で行うなど、アジャイルな進め方が望ましい。
- ・ マッチングで出てきたテーマに開発助成もつくと早くできる。フレキシブルにテーマを追加できることが望ましい。
- ・ ニーズ・シーズのマッチングに期待。現場のニーズをうまくのせていくことができれば良い。
- ・ 1丁目1番地の施策であり、(予算を)他から持ってくるなど導入していく価値がある取組。国交省の底力を見せて欲しい。

以上